

名古屋佛具卸商協同組合

多彩な工芸技法で成り立つ仏具

小型、簡素化された現代仏壇と仏具

位牌、仏像、鈴、燭台など仏壇にはさまざまなものが置かれています。仏壇の前には木魚や経机きょうづくえなどがあります。こうした仏壇の中や外に置かれるものを総称して仏具とっています。これら仏具は素材も製造工程も異なり、多くの職人さんが関わります。そこで仏具をまとめて流通させているのが名古屋佛具卸商協同組合です。組合の設立は昭和38年(1963)で、組合員は設立当時は54軒ありましたが、現在は27軒です。

仏壇は地域や宗派によって形式が異なりますが、住宅事情等の変化があり、平成の中ごろから、それまでの仏壇に替り、小型化、簡素化された「家具調仏壇」が浸透してきました。宗派の形式にとらわれないコンパクトな仏壇の普及によって、仏具の数も減り、小型化しています。

かつて、名古屋仏壇は大きく、台の部分に高さがあるため、水害に強いといわれていましたが、今ではそうした仏壇を新調する家庭が減少しています。また、高齢者だけの世帯が増加し、仏壇の維持が難しくなっています。こうした傾向は都市部だけでなく地方も同じです。

尾張の仏具が国の伝統的工芸品に指定

全国的に家庭用仏具の需要が減少しているため、今では寺院用仏具の修理の割合が高まっています。木魚は、京都や東京に手掛ける人がいなくなり、現在では、尾張地域でしか作られていません。

もともと名古屋は寺院用仏具の生産が多かったこともあり、全国の寺院から仏具の修理の依頼があります。

こうした中、名古屋佛具卸協同組合の有志と仏具の職人の有志で尾張仏具技術保存会を結成、平成29年(2017)に国の伝統的工芸品の指定を受けました。

いま、若い人の中に神社仏閣巡りを楽しむ人が増えていきます。そうした若者に、家庭の仏壇を見直してもらったり、安価な中国製品が増える中、工芸的な価値が高い伝統の技による仏具を適正価格で販売できるように取り組んでいます。

令和3年(2021)には吹上ホールで尾張仏具技術保存会との共催で、第1回の展示会を開催するなど、尾張名古屋の仏具をアピールしています。



木魚の製作



仏像の彩色